

町長の一言



二つの開園

6月中旬、石塚の小林さん方の「そよ風の丘」ブルーベリー園開園の案内をいただいたので出席しました。園内に500本近いブルーベリーが植栽されていて、早生種の収穫が始まったところで、シーズン入り前のオーブンセレモニーでした。小林さんは、5年ほど前に農地を取得して農家の仲間入りをした新規就農者です。

今農業は、特に米、麦、大豆等については、認定農業者や大規模農家、集落営農等を中心に農地を集約して、面積拡大と経営効率化により国際競争にも勝てる体制にしているため、政策の舵を切ったところだと思います。しかし、城里町のような中山間地域は、耕地、地形の状況等で集約化できず、少量多品目の栽培形態で生きなければならぬ農家が数多くあるわけで、これが直売センターや、今回の「そよ風の丘」のような方式になっていくのではないかと思います。

ではないかと思えます。農業と観光の結びつきにもなるわけで成功を願っているところなんです。

下青山の花しようぶ園が今年も開園しました。これは石塚の山崎さんが、休耕田を利用して丹精を込めて育て上げたもので、植付けて10年目、私が最初に訪れた6月中旬は三分咲きでしたが、60種類の花しようぶが見事に咲いていました。高萩市から訪れたという方は、「周囲の風景とマッチして、水郷の花より素晴らしい」と絶賛でした。23日、24日の花しようぶまつりには、町福祉作業所つくしの人も参加して、苗販売やお茶会等が行われました。

町の中には、このブルーベリー園や花しようぶ園などの他、私たちが気づかない新しい形の観光ポイントがあると思えます。これらを地域の観光として生かしていくことが肝要ではないかと思っています。

文芸しるさと

俳句



曲りやすき胡瓜のお尻走り梅雨
函館の夜景人波花の旅
まん中は未決引き出し麦の秋
老鷹を鎌立てて聞くすぐそこに
手這坂下り来て広い青田かな
どっしりと竹うなだれて梅雨の空
沙羅の花ひっそり水車廻りけり
熊野古道踏み固まり苔の花
徳高岳望むつり橋新樹光
ガラス器の水の屈折薔薇匂ふ
福祉バス乗り込む友の夏帽子
ぶつかり合ひ育つトマトのみづみづし
花栗や寺町土塀長くあり
蔓薔薇の香るアネチをくぐりけり
つばくろや丸染上に菓を並べ
筍や気付けば私の夫を越し
竜神橋渡りてみどりの風涼し
飯田 勇一
山崎 正行
竹内 幸子
いそべきよ
田所 厚子
飯村 愛子
鯉 潤
飯村 昭子
今瀬 多代美
高橋 芦江
阿久津 あい子
森 静江
仲田 まちえ
瀬谷 博子
岩下 金司
富田 多蔵
岩下 美知野

短歌



指先に強くのこれる山椒の香り
含めて朝の味噌汁
大森 久子
「宮崎をどげんかせんといかん
など」方言交え改革強調す
高堀 よしの

細々と児童に教へること馬鈴薯植
えを説く子は教師の癖ぬけきらず
競技中の意見の衝突はその場限
り終れば忘れて親睦深む
頂きも裾野も萌ゆる新緑の中に
ひとときわ彩ふ山桜
宮本 ふみ江
けさ撒きし残り餌あらむかど雀
らの時折り木下を巡りさがせり
綿雲のゆつたり流るる大空の果
ては「戦」などなきこと静か
玄閑にひらき初めたるチユリッ
「おかえりなさい」に只今を云ふ
山形 式妙
よろこびの日に見し桜哀しみに
も見しさくら幾度くり返し来し
まつ先に「折々のうた」楽しみ
に新聞読み来しに欄は失すとう
ほととぎす鳴く山間にあやめ咲
く艶やかなれる紫の色
岩下 通子
軒先にツバメ巣作りおはようと
窓を開ければ心地よい風
富田 欽子
那須岳の春は未だ浅くして茶臼
の峰は残雪光る
阿良山 ウメノ
過ぎし日のタバコ作りし山畑の
土手のアザミは残し草列る
鶴田 すが
入梅や雨の中より花しようぶ紫
白と色あざやかに
市川 義子
知らぬまに柿の若葉広がりて道
路を通る人隠したり
山口 栄
関東の嵐山とはよく言うた那珂
川沿いはその風情あり
山本 隆 荘
右肘にサポーターして草を引く
われを嘲るがに伸び来るすぎな
薄井 ひろ

夜桜の散り初むる舞台は若きらが
「よさこい」踊る桜花にも負けじと
共に飲まむ念ひに新茶注ぎ分け
一つは仏壇の姑に供へたり
片見 和枝
広大な工業団地を桜も植えめ
ぐらせる企業に拍手
川上 千代子
月光に輝りて垂れいる藤の花手
折らば重き生命を覚ゆ
人恋ふや番の鴨がペタペタとわ
れに着き来る行きも帰りも
多田 志保子
足腰の急速に弱くなりたる身は生
かされつつ来て八十路となりぬ
坪井 きよ子
庭の鉢に白椿の花見つけたり挿
し木の初花よくぞ咲きたり
萩谷 登喜子
雑草の中に新芽を出した藤の花
鉢に入るや責人の姿なす
和知 美智子
空の雲山の緑も田毎に映すしば
らくの間の鏡となりて
富田 佐智子

川柳



温暖化四季を乱すは人間か
御前山那珂川流れキャンプカー
デマンドに煩い蠅の無賃下車
晩婚で赤ちゃん出来ぬ四十年代
北野 武
中島 芳春
青木 新三郎
仲田 こう

訂正

広報しるさと6月号12頁、
今瀬多代美さんの俳句は、
「新緑や黄門様のお成り部屋」
の誤りでした。
お詫びして訂正します。